

令和 6 年度事後調査報告書 概要書

1. 事業の概要 (P. 1-1~2-6)

- (1) 事業者：国土交通省近畿地方整備局、阪神高速道路株式会社
- (2) 対象事業の名称：神戸国際港都建設計画道路 1.3.6 号大阪湾岸線西伸線
- (3) 対象事業の種類及び規模：一般国道（自動車専用道路）の改築 延長 14.1 km
- (4) 対象事業の位置：起点：神戸市東灘区向洋町東
終点：神戸市長田区南駒栄町

2. 工事の進捗状況 (P. 4-1~4-2)

工事開始時期：平成 31 (2019) 年 1 月

令和 6 年度の工事内容：六甲アイランド島内 下部工工事、上部工工事

3. 事後調査の内容 (P. 3-1~3-2)

工事中の事後調査

環境要素	影響要因	環境調査		施設調査
		調査項目	調査時期	調査項目
騒音	建設機械の稼働	騒音レベル	1 回/年	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の稼働状況 ・環境保全措置の実施状況
	工事用車両の運行	等価騒音レベル	1 回/年	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の運行状況 ・環境保全措置の実施状況
振動	建設機械の稼働	振動レベル	1 回/年	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の稼働状況 ・環境保全措置の実施状況
	工事用車両の運行	振動レベル	1 回/年	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の運行状況 ・環境保全措置の実施状況
廃棄物等	切土工等又は既存の工作物の除去、掘削工事、海底の掘削	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・建設副産物の概略の発生量、再利用量及び区域外搬出量 ・環境保全措置の実施状況

【調査対象とした建設作業】

建設機械の稼働に係る騒音・振動の調査は、令和 6 年度の施工計画及び「道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所、平成 25 年 3 月)等に示される建設作業ごとの発生源の大きさを基に、当該年度で保全対象への騒音・振動の影響が最も大きいと想定した工種を対象に実施した。

【工事用車両の運行の調査地点・時期】

工事用車両の運行に係る騒音・振動の調査は、事後調査計画書（平成 30 年 12 月）を基に令和 6 年度の工事用車両の運行計画と保全対象の位置関係を踏まえ、当該年度で騒音・振動の影響が最も大きいと想定した地点・期間で実施した。

4. 事後調査結果の概要

(1) 騒音 (P.5-2~5-10)

項目			時期	地点	結果	評価
建設機械の稼働に係る騒音	環境調査	騒音レベル (L_A 、 L_{A5} 、 $L_{A, Fmax}$ 又は $L_{A, Fmax, 5}$)	R6. 12	東灘区向洋町東	騒音レベル ($L_{A, Fmax, 5}$) は 78dB で、規制基準値 (85dB) を下回った。	事業の実施による影響は実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると考えられる。
	施設調査	建設機械の稼働状況	環境調査と同時期	環境調査の調査場所周辺	鋼管矢板基礎工 (油圧パイルハンマによる鋼管矢板の杭打設) : 油圧パイルハンマ 1 台、油圧ユニット 1 台等	
		環境保全措置の実施状況			<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型の建設機械の採用 ・作業者に対する建設機械の取り扱いの指導 ・建設機械の集中稼働を避けた効率的稼働 	
工事用車両の運行に係る騒音	環境調査	等価騒音レベル (L_{Aeq})	R6. 12	東灘区向洋町中	騒音レベル (L_{Aeq}) は昼間 56dB、夜間 50dB で、環境基準値 (昼間 65dB、夜間 60dB) を下回った。	事業の実施による影響は実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると考えられる。
	施設調査	工事用車両の運行状況	環境調査と同時期	環境調査の調査場所周辺	5 台/日 (昼間 2 台、夜間 3 台)	
		環境保全措置の実施状況			<ul style="list-style-type: none"> ・作業者に対する工事用車両の運行の指導 	

(2) 振動 (P. 5-11~5-20)

項目			時期	地点	結果	評価
建設機械の稼働に係る振動	環境調査	振動レベル (L 、 L_{10} 又は L_{max})	R6. 12	東灘区向洋町東	振動レベル(L_{max})は 67dB で、規制基準値(75dB)を下回った。	事業の実施による影響は実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されると考えられる。
	施設調査	建設機械の稼働状況	環境調査と同時期	環境調査の調査場所周辺	鋼管矢板基礎工（油圧パイルハンマによる鋼管矢板の杭打設）：油圧パイルハンマ 1 台、油圧ユニット 1 台等	
		環境保全措置の実施状況			・作業者に対する建設機械の取り扱いの指導 ・建設機械の集中稼働を避けた効率的稼働	
工事用車両の運行に係る振動	環境調査	振動 レベル (L_{10})	R6. 12	東灘区向洋町中	振動レベル(L_{10})は昼間 35dB、夜間 27dB で、要請限度値(昼間 65dB、夜間 60dB)を下回った。	事業の実施による影響は実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されると考えられる。
	施設調査	工事用車両の運行状況	環境調査と同時期	環境調査の調査場所周辺	5 台/日（昼間 2 台、夜間 3 台）	
		環境保全措置の実施状況			・作業者に対する工事用車両の運行の指導	

(3) 廃棄物 (P. 5-21~5-22)

項目			時期	地点	結果	評価
施設調査	<ul style="list-style-type: none"> 建設副産物の概略の発生量、再利用量及び区域外搬出量 環境保全措置の実施状況 	R6 年度	事業実施区域内	建設汚泥、アスファルト・コンクリート塊は、全て再資源化した。	事業の実施による影響は実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されると考えられる。	